



## FOA · EAST NEWS No. 6

1990. 2. 17.

### アイビーリーグ視察から

笹田 英次

第2回エプソンアイビーボウルのためにアイビーリーグのオールスターが来日するという事で、実行委員長としてアメリカに視察に行く事になった。

9月14日に成田を出発、JFK空港経由ボストンローガン空港着、ボストン泊。

あくる15日にハーバード大学の視察に行く慶応OBの案内で構内、構外を見物、その広さと清潔さに驚くのみ。丁度学年の変わり時なので人の動きも多く、入学生だろう人とその両親がいたり、兄弟がいたり、又、寮の引っ越しの最中というのがあったりで大変に楽しめました。又、ハーバード大学の生協で大阪から来た集団のオバタリアンの買い漁りぶりにはびっくりしました。

競技場はクラシックな建築様式のコンクリートの馬蹄型で約3万8000人収容、コンクリートの競技場としては米国最大だそうです。建物自体はやや粗末なものでしたが、芝生の管理は素晴らしいものでした。普段の練習場は広い野原で5～6面位はフィールドがとれる感じでした。体育館もテニスコートを中心にしてその周囲でランニングが出来るように出来ていました。トレーニング機器は十分に揃っているようでした。クラブハウスはとても良い感じの煉瓦建てのもので、その中にヘッドコーチの部屋や秘書の部屋、更衣室がありました。何とも見事で日本の大学との差はものすごいものだと感じました。

練習は金曜日とあって翌日がコロンビア大学とのゲームという事で45分位トレシャツ、トレパンにヘルメットだけというスタイルで、オフense、ディフェンスのフォーメーションを入念にチェックしていました。コーチ達も走り廻って指示をしていました。短い時間でしたが内容はピシシで息を抜く間もない感じです。コーチの云う事には全員実に良く従いますし、ストレッチ、ウェイトトレーニングは自分達で自発的にやるという事で、その辺りの自覚度は日本の学生より上だと感じました。練習後はすぐバスでコロンビアに4時間がかりで行くのだそうです。

16日はニューヘブンに行き、エール大学でのエール対ブラウンのゲームを見に行きました。試合場はエールボウルという土を盛り上げて作った感じの所で7万人余の収容という事でしたが、あいにくの雨で観衆は11,252名でした。ゲームそのものはロースコアのゲームでしたし、内容も低調、日本の大学の1部のリーグ戦を見ているようでした。ハーフタイムの両校によるマーチングバンドのショーも試合後の交歓風景も試合前のさわぎ方も非常に素朴で対抗戦の原点を見ているようで感激をおぼえました。この夜はエールで泊まりました。

翌17日はハードスケジュールでNFLのマイアミ対ニューイングランドの試合を見に行きました。ローガン空港からずっと郊外のサリバンスタジアムでゲームが行われました。観客は殆どが車で、駐車場の大きさは凄いの一言、テールゲートパーティも行われていました。観客数は開幕戦なのに57,043名、試合はマリノとイーソンのQBの出来の差で決まりましたが前半はマイアミ24点、後半はニューイングランド10点と大味ながらも楽しめたゲームでした。終わってニューヨークへ、その日はニューヨーク泊。

18日は今度のオールスターの監督をやるマキシ・ボーン氏と会見、前のコーネル大学のヘッドコーチだという事で試合の事やアイビーリーグについての説明等、色々話し合いました。その席で一定の得点以上をとらないようにしたら等のボウルゲームルールはどうか、といわれましたが、勉強のために遠慮は無用と大見得を切りましたが、半分以上は心配でした。又、審判は日本側でやらせてほしい旨を主張してみました。これは宜しいとの事で私としては重荷が下りた思いでした。この日はニューヨークのごく一部を見物、そのまま明日の帰国に備えてニューヨーク泊。

すべてが視察を中心にした駆け足旅行で大変でしたが今になってみればニューヘブンで一部の人の荷物が到着しなかったり、ニューヨークでホテルがリザーブ出来てなかったり、飛行機の遅れも度々といった事も思い出になってしまいました。

(ささだ えいじ=日本アメリカボウル審判協会理事長)

## 第2回ラッシュ・ボウル

東 俊

ラッシュ・ボウルは、皆さん既にご存じのように、日本のフットボールの父と言われるポール・ラッシュ氏を記念して行われるボウルゲームです。

ポール・ラッシュ氏は、ハケ岳清里を拠点として農村復興事業を興したことで有名です。ハケ岳の高根町、長坂町、大泉村、小淵沢町では、このポール・ラッシュ氏の業績を讃え、その精神を伝えるために、毎年、様々なイベントが開催されます。10月には清里で、『ポール・ラッシュ祭〜ハケ岳カンティフェア'89』が開催され、その一環として八田村でラッシュ・ボウルが開催されたわけです。今年で2回目になります。

審判部からは、中村、中尾、松丸、飯島、島崎、東の各審判が参加し、ラッシュ・ボウルを支援しました。

ポール・ラッシュ氏の縁から、山梨県は、日本で2番目に、県のアメリカンフットボール協会を発足させています。県と周囲の人たちのフットボールにかける意気込みが伝わってきます。

今回は、このラッシュ・ボウルの審判として参加させていただいた経験を報告させていただきます。

さて、前日の11月18日12時に東京を出発した中尾、飯島、東のトリオは、ラッシュ・ボウルの記念の帽子と一緒に、その日の夕方、夕闇せまるハケ岳の麓、清里の「清泉寮」に到着しました。

夕暮れ時で、寒さを感じさせる空気でしたが、若い男女がたくさん集まっており、清里人気、清泉寮人気を目の当たりにする感じでした。

荷物を整理した後しばらくして、6時30分頃から前夜祭が開催されました。

「ファルコンズ」と「ラクヒルズ」の選手諸君は、翌日の試合に備えて残念ながら参加を遠慮されましたが、ラッシュ・ボウルを支えて下さる方々の一生懸命さが肌に伝わる、とても暖かな会でした。前夜祭に参加した人達一人ひとりが知り合いになっていく、そんな素晴らしい会でした。

翌日の朝、目を覚まして窓の外を見ると、なんと、白いものが舞っていましたが、競技場はここ（清泉寮）から約40分程車で走った八田村御勅使公園ラグビー場です。山を下りにしたがつて、徐々に暖かくなってきました。

当日の天気は、快晴に近い晴れ。しかし、風がやや強く吹いており、肌寒さを感じる気温でした。

第1試合は、これからの山梨県アメリカンフットボールの発展を担う、「山梨大学ファイティング・フォーマーズ」と「山梨学院大学サンダウナーズ」のゲームです。

松丸、飯島、島崎、東の各審判が試合を担当しました。フットボールのオフィシエイティングの基本である4メン・クルーの難しさをたっぷりと味あわせてもらいましたが、試合の方は、両校の実力が伯仲。なかなか点の入らない緊迫した試合となりました。T・F・Pの差で試合は決まりましたが、両校のフットボールにかける情熱は、山梨県にしっかりとフットボールの根を張ってくれるものと思います。東京との距離の近さを有効に利用して、急速に実力を伸ばすことを期待します。

第2回ラッシュ・ボウルは「NECファルコンズ」と「三和銀行ラクヒルズ」の間で争われました。NECファルコンズはリーグ優勝のかかったゲーム。応援もバス繰り込む力の入れようで、いやが上にも試合は盛り上がります。午後になっても体感温度は上がらないままですが、熱気はそれを上回ります。審判は、先の4名に中尾、中村の両ベテランを加えた6名で担当しました。

試合の結果は、既に皆さん報道等でご存じの通り、前半は、拮抗したゲーム展開でしたが、後半優勝への執念から思わぬ大差がつき、タイム・アップとなりました。

ラッシュ・ボウルを支えて下さった関係者の方々、多くはボランティアの方々とお見受けしましたが、ありがとうございました。皆さんのお力がなければ、ここまでの成功は望めなかったと思います。皆さんが、笑顔で、本当に楽しそうに、ラッシュ・ボウルを盛り上げて下さったことに頭が下がります。ラッシュ・ボウルを、楽しみにしていच्छるのが良く分かります。皆さんの力で、ぜひ、ラッシュ・ボウルを見守り育てて行っていただきたいと思います。山梨大学・山梨学院大学のチェイン・クルーの皆さんありがとう。

そして、両チームの方々に感謝したいと思います。

このようにすべての方々の心からの協力で、第2回ラッシュ・ボウルを大成功に終わらせる事ができたものと思います。帰りの車は、暖かい気持ちで満ちていました。家で飲んだヌーボウの味もまた格別でした。

山梨の人の暖かさに酔った1日でした。感謝々々。

## 北海道地区活動報告

大沢 俊信

北海道のアメリカンフットボールは、今年度は学生1部2部合わせて14チーム、社会人7チームで構成され、春は「スズランボウル」に始まり、「ポテトボウル」、全道学生王座決定戦「円山ボウル」に至るまで運営されております。

これらの試合数は学生のみで45試合、社会人を含めると年間の公式試合数は50試合を越えております。北海道学生アメリカンフットボール連盟の審判部は、今年は総員50名で前述の試合数を6人制で対応しております。ここ数年来、各参加校のOB会に対して協力を要請し続けてきた結果、なんとか頭数を揃えたものの、審判専任の人はまだまだ少数です。社会人で選手として活動している方に審判を協力してもらっているのが実状となっており、審判としての知識と技術を習得していただくまで所属し続ける方々は本当に一握りの人員となります。さて、フットボール熱はここ数年高まりを見せておりますが、北海道でも88年には日産パルサーズ、89年にはアサヒビール・シルバースターを招待し、北海道オールスターズと対戦しております。試合結果はさる事ながら、こうした一流の選手達を身近に見、かつ我々として審判を担当させていただく事は、良い刺激剤となっております。選手としてのみのフットボールとの関わりから、なんとか審判部に籍を置き、そこからルール、メカニクを再度学びながら、新しい視点でこのスポーツに関係を持ち続けさせて行くには、それなりに運営面の組織体制が求められます。春、夏のシーズン前のルールクリニックは選手、コーチ向けに開催しておりますが、審判部としてのレベルアップは、関東審判部のルール合宿に参加する程度にとどまっております。幸いにも本年（平成元年）9月まで関西審判部の徳岡彰氏が3年間程札幌で勤務をされ、身近に学ばせていただきました。今後は審判部としてのレベルアップに向けて、学習の機会を多く作り、ルール、メカニクの体得に務め、審判としての喜びを試合運営の中から感じてもらうよう、一層の体制作りを強化して行きたいと考えております。今後とも関東審判部の皆様方の協力をいただきます事を、お願いし、北海道審判部の活動の一端を報告させていただきます。

（おおさわ としのぶ＝北海道連盟審判部長）

### ちょっと古いけど あなたにもチェルシー

・ミニクリニック活動報告・

生い立ちを語れば、ミニクリが開催されるようになって足かけ3年になる。審判部の運営を、より組織的システムに発展させて行こうという気運の中で、理事会制度が生まれ、教育指導部が設けられた。そこで望まれた事の1つが、小集団による勉強会だった。

丁度その年には、飯島、古沢、石橋、森谷諸君といった個性豊かな新人グループがあり、彼等と共に1つ勉強会をやってみるかと鈴木啓友君と話したのが、そもその始まりであった。

その後は飯島君が裏方を一手に引き受けてくれ、帳簿会計は、森谷君から石橋君へと引き継いで今日に続いている。さしたる取り決めがある訳ではない。しかし、良く皆色々なテーマを持ち込んでくれた。フィールドゴールでキックされたボールをボールに登ってたたき落としたらどうなるか等ということを古沢君が持ち込む。皆で調べる。これが案外AR編に解答が出ていたりする。強いて取り決めといえ、出席者全員が話す事、沈黙は悪。自分で調べる事。

概して、シーズン中は集まりが良くオフには減る傾向があった。少ない時には、内容に問題があるかな？等と飯島君と自己反省した時もある。意外にその辺のバランス感覚が継続していく面でプラスであったようにも思う。フットボールに関して、皆本当に話題豊富だ。何人か寄り合えば人数分の話題と、視点、思考がでてくる。当たり前と言え、当たり前の話したが、これが実に楽しい。メンバーの個性を紹介したら紙面に尽きない。私自身が昨年より理事会に出席するようになり、意見形成の過程で随分とメンバーの話が役立っている。審判の仲間で、こんな楽しみを他の地域でも体験してもらいたいと願うと同時に、審判部内の組織図としては、ミニクリと理事会の間に、もう1、2段階の会合が必要であるし、その辺の充実が、100数十名を抱えるマスの面では重要な処になるだろうと考えている。何はともあれ、フットボールの楽しみの中で、今ミニクリが一番私にとって楽しい。メンバーに感謝している。未体験の方！来られてもよし、創られてもよし、是非、是非味わっていただきたい。

（千田 義彦）

審判を始めて3年目の春、私は白帽子をかぶる機会に恵まれました。というのも、ミニクリでクルーを組むことになり、私がレフリーをやることになったのです。レフリーが決まってからの1カ月余りはあつという間に過ぎ、いよいよ明日は試合という前日、一生懸命シグナルを確認し、試合に臨みました。当日、グラウンドに行くとミニクリの仲間は既に来ており、「昨夜は眠れなかったろう」と冷やかされながら、プレミーティングを開きました。「声、シグナルは大きく」、「焦らずゆとりを持って」、「処理できなくなっても皆が助ける」と励まされて気が楽になりました。セレモニーが終わりいよいよキックオフ。クルーが声を掛け合った時、私は手をグッと握られました。もう完全に肩の力は抜けています。試合中、何度か判断に迷うこともありましたが、クルーの助言といつも仲間と一緒にやっているんだ、という精神的余裕で乗り切ることができました。

そして秋。公式戦で初めてレフリーをやりました。春に一度経験しているという自信と、周りのクルーとは余り話をしたことがないという孤独感が入り乱れていました。

（石橋 正之）

出たり出なかったりで、初回より連絡をもらっているが、一番の収穫はルールブックを見るようになったこと。この十数年分以上を付き合ってしまった感じがする。クリニックの時とは違いミニクリの場合は自分自身ドキッとすることが洗い出されてくる。中堅の皆さんも一度この雰囲気味わってみたいかなですか。

（佐藤 繁樹）

## ◆理事会報告◆

(文責) 編集部

FOA・EAST・NEWS No. 5に 続き、第39回以降の関東審判部理事会の内容の概要を報告します。議事録は公開資料ですので、詳細を知りたい方は各理事が所持している議事録を参照して下さい。

### ◆第39回理事会 (1989年10月6日)

- ・9月中の運営報告
- ・試合中の発生した負傷者への対応について
- ・インストラクタ委員会報告

### ◆第40回理事会 (1989年11月14日)

- ・秋季試合実施状況報告
- ・安全委員会(仮称)への委員派遣について  
関東大学連盟が安全委員会を設立する事になり、関東審判部から岡本、喜入両理事が派遣されることになった。
- ・89年度納会の開催について
- ・ブロックの基準について  
「手の平が下を向いているときは、結んでいなければならず、形態としてはブローの様な形になっても良いが相手を殴る状況になった場合は反則である」
- ・新人審判員の募集  
来年度の新人募集に関し①DMを年内に発送②来年度から1チーム3名のOBを出す③大学監督に推薦依頼する④現部員に対し推薦依頼を強化
- ・審判の負傷障害について

### ◆第41回理事会 (1989年12月15日)

- ・ボウルゲームの実施状況報告
- ・審判員交通費の値上げに関しての検討  
今年度の交通費を1試合2000円とすることが、決定された
- ・納会について  
概要を検討した結果、下記の通りとなった  
日時: 1990年2月17日(土) 18:00  
場所: 横浜、ロイヤルホール
- ・各委員会からの報告  
インストラクタ委員会、映像委員会、ルール委員会
- ・用具関連の作成、購入予定の確認
- ・来年度春季総会について
- ・チーフ・タイマー、フィールド内マークについて

### ◆第42回理事会 (1989年12月25日)

- ・IVYボウルにおいて審判の判定を不満とする行き過ぎた言動に対する事実の確認と、今後の対応を検討、決定した

### ◆第43回理事会 (1990年1月19日)

- ・協会事務所引っ越しの報告  
3月1日オープンの予定で協会事務所が高輪に引っ越す計画の報告
- ・IVYボウルのトラブルに関する経過報告
- ・社会人来年度リーグ編成について  
89年度80試合の実績が来年度は新規加盟チームが15チームとなり、試合数が急増する。社会人協会からの派遣要請について①秋のシーズン前に審判員の派遣可能試合数を社会人協会あて連絡する②派遣計画に基づき社会人協会で派遣試合を決定し、それ以外の試合は社会人協会で審判の運営を行う予定
- ・納会準備報告
- ・インストラクタ委員会報告
- ・今後の予定  
①来年度総会を4月8日(日) 東京・芝の機械振興会館で行う(10:00~16:30)  
②5月クリニックを5月15日(火) 夜に機械振興会館で行う
- ・新人募集については勧誘はがきを発送する
- ・反則サマリを参考資料として関東連盟および社会人協会に送付する  
4月総会時に配布予定のニュースに米国との比較を掲載する

FOA・EAST・NEWS No.6

日本アメリカンフットボール審判協会

関東審判部・機関紙

発行: 1990年2月17日

発行責任者: 喜入 博

〒

編集担当: 森 賢

〒

※ 無断転載、引用を禁止します